# 大同心大滝アイスクライミング

2011/01/23

斉藤（記）杉山（無所属）岡崎（雪童山の会）

大同心大滝から小同心クラックと氷から岩への継続を経て横岳の頂を踏むという興味深い誘いを受け二つ返事で乗っかる事にした。

1/23 5:25 足ごしらえを終えると美濃戸より赤岳鉱泉へと続く登山道を歩き出す。赤岳鉱泉に着く少し手前、前方に大同心大滝を望む事が出来る。シーズン初めに同じ場所から見た時と比べると大分発達したように見える。6:55 赤岳鉱泉に着き、休憩しながらハーネス、アイゼンを付け、7:30 大同心大滝へと向かう。硫黄に続く登山道を最初に横切る大同心ルンゼの踏み後を辿る。目立った滝も無く、8:30 大同心大滝の袂に着く。登攀準備を整えながら、内心、「リードお願いしますね。」という気持ちで杉山さんに「誰がリードします？」と聞くと「やってみる？（リード）やってみなよ。」との答え。このメンバーでは出番は無いと思っていただけに面食らってしまったが、すぐに、調子に乗って「じゃっ、やっちゃおっかな。」とリードを担当する事になった。大同心大滝は以前にトップロープで登った事はあったが、リードするのは今回が初めてとなる。自分にとってアップ無しで最高グレードに取り付くようなものだ。まずは緩傾斜部を一段登り垂直部の始まる左のテラスで暫し休憩する。右にトラバースして 10m 程続く核心部に取り付く。早速、リードのプレッシャーで我を失いフィフィを使いアックステンションをかけてしまう。緊張で体が力み、各駅停車で時間をかけて登るが、中盤にさしかかったあたりでとうとうフォールしてしまった。テラスまでロワダウンで下ろしてもらい、大休止する。気分を取り直して、また、登り始める。ありったけのスクリューと時間を使い必死の思いで落ち口を越える。10:30 大滝上のビレイ点に 3 人が集合し、次なる目的、小同心を目指す。更に谷をつめ最後は左よりに登ると 30 分程で大同心稜上部に出る事が出来た。休憩をしながら、まだ先の小同心を眺めると小同心クラックに取り付くクライマーを確認する事が出来た。取り付きに 1 名、1P 目終了点に数名、2P 目を登攀中のクライマーも見える。この渋滞では早く行ってもしょうがないと、長めに休む。「そろそろ行くか。」と大同心稜を大同心基部まで登り、バンドを右にトラバースして小同心クラック取り付きへと行く。着いて驚いたのは 1 時間以上前に遠望した時と取り付いているパーティーが全く進んでいなかった。3 パーティー8 人がダンゴになっているようだ。やむを得ず、即、下山を決定する。バンドを下り始めると登りの時はそこまで気にしなかったが、結構、いやらしく感じた。冷汗をかきながらも、大同心稜に着くとホッとし、そこから先は、早足で下山した。今回の大同心大滝の登攀で自分の精神的な弱さ、技術の未熟さを知る事になり、大きく課題を残す事になってしまった。もっと、経験積んで、次に、大同心大滝を登る時は納得の出来る楽しいクライミングをしたいと思う。